



総務省承認	No.
承認期限	平成19年9月28日まで

2008年漁業センサス試行調査
内水面漁業調査
内水面漁業地域調査票（案）
平成19年7月1日調査

この調査票は、来年11月に予定している2008年漁業センサスの実施に向けて、調査実施上の課題等を明らかにするためのもので、それ以外の目的（税金の徴収等）に使用することはありません。

〔記入上の注意〕

- 1 記入に当たっては、「内水面漁業地域調査票の記入の仕方」を良く読んでから記入してください。
- 2 調査票の内容については、本年（平成19年）の7月1日現在で記入する箇所と、過去1年間で記入する箇所があります。過去1年間の場合は、平成18年 7月1日から平成19年6月30日までの1年間について記入してください。
- 3 調査票への記入は、黒の鉛筆かシャープペンシルで記入してください。
- 4 数字は、算用数字で1マスに1字ずつ右に詰めて記入してください。

【統計調査員】	7月 日（ ）
氏 名：	午前・午後 時ごろに
電話番号：	調査票の回収に伺いますので、 それまでに該当する箇所の記入 をお願いします。

〔事務処理欄〕

区分コード

都府県 (支庁)	市区町村	水系	客 番	体 号

漁協種類コード

- 1:河川
2:湖沼
3:養殖

市区町村名

漁業協同組合名

I 組合員数

7月1日現在の正・准組合員数について記入してください。

(人)

正 組 合 員	101				
准 組 合 員	102				

II 生産条件

1 漁場環境

(1) 7月1日現在の漁協の管轄区域内にある河川・湖沼関連施設について、当てはまる番号をすべて○で囲んでください。

	えん てい 堰 堤	うち、 魚道つき	魚礁・魚 巢ブロッ ク	産卵場
111	1	2	3	4

堰堤… 水流をせき止めたり、調節したりするために、河川の途中や湖沼の出入り口に設けられた仕切り。

魚礁・魚巢ブロック… 河川や湖沼に自然石やブロックを人為的に投入、あるいは設置された水産動植物の生息場。

産卵場… 水産動植物の産卵を行う場所として、禁漁区の設定、水性植物の保護・造成、河床の整備、浮産卵礁の設置及び堆積物の除去等を行っている区画。

(2) 過去1年間の漁場環境改善への取組について、当てはまる番号をすべて○で囲んでください。
(過去1年間)

	種 苗 生 産 ・ 放 流 の 取 組	中 間 育 成 の 取 組	保 護 水 面 の 管 理	産 卵 場 の 造 成 管 理	魚 道 の 管 理	魚 付 き 林 の 造 成	魚 植 付 き 林 の 樹 活 成 以 外 の 動	河 川 ・ 湖 沼 の 清 掃 活 動
141	1	2	3	4	5	6	7	8

魚付き林… 水面に対する森林の陰影、投影、魚類等に対する養分の供給、水質の汚濁防止等の作用により魚類のすむところや繁殖を助ける目的で設けた林。ただし、魚つき保安林として指定された魚付き林は除く。

植樹活動… 森林がもたらす栄養分に富んだ水の安定供給、保水機能、良質の土砂の供給等により魚介類等を保育する目的で山に木を植え、その保育作業をすることをいう。

(3) 生産した種苗の種類について、当てはまるものをすべて○で囲んでください。(過去1年間)

放流等のために行う中間育成や蓄養は除きます。

さ け ・ ま す 類	さ河性	し　ろ　ぎ　け	151	1
		さ　く　ら　ま　す	152	1
		そ　　　の　　　他	153	1
	陸封性	に　じ　ま　す	154	1
		あ　　　ま　　ご	155	1
		や　　　ま　　め	156	1
		い　　　わ　　　な	157	1
		そ　　　の　　　他	158	1
あ　　　　　　　　　　ゆ			159	1
こ　　　　　　　　　　い			160	1
ふ　　　　　　　　　　な			161	1
そ　　　　　　の　　　　　　他			162	1

(4) 放流したものについて、数量を記入してください。(過去1年間)

百 十
万 万 万 尾

さ け ・ ま す 類	さく河性	し ろ ぎ け	1,000尾 単位で 記 入	171				
		さ く ら ま す		172				
		そ の 他		173				
	陸封性	に じ ま す		174				
		あ ま ご		175				
		や ま め		176				
		い わ な		177				
	そ の 他	178						
あ ゆ		179						
こ い		180						
ふ な		181						
う な ぎ		182						
そ の 他 の 魚 類			183					

千 百 十
万 万 万 粒

わ か さ ぎ 卵	10,000粒 単位で 記 入	184				
そ の 他 の 卵		185				

千 百 十 kg

貝 類	kg単位で 記 入	186				
-----	--------------	-----	--	--	--	--

2 遊漁の状況

(1) 遊漁承認証の発行枚数について記入してください。(過去1年間)

遊漁承認証の対象魚種が複数魚種の場合は、それぞれの対象魚種に記入します。

(例) あゆ、やまめ及びこいの複数魚種を対象とした遊漁承認証を過去1年間に100枚発行した場合は、あゆ欄に100枚、ます類欄に100枚及びこい・ふな類欄に100枚とそれぞれに記入します。

		ま す 類				あ ゆ				こ い・ふな類				わ か さ ぎ				そ の 他				(枚)
		万 千 百 十 枚				万 千 百 十 枚				万 千 百 十 枚				万 千 百 十 枚				万 千 百 十 枚				
遊 漁 承 認 証	年 間	191				192				193				194				195				
	漁 期 間	196				197				198				199				200				
	1 日	201				202				203				204				205				

(2) 遊漁者への啓発・普及活動の取組について
当てはまる番号をすべて○で囲んでください。
(過去1年間)

	ポスター、パンフレットの作成	講習会の開催	その他の啓発・普及活動
206	1	2	3

Ⅲ 活性化の取組

(1) 地域との交流活動の取組について当てはまるものすべてに参加人数を記入してください。
(過去1年間)

漁業体験と魚食普及活動を一体として実施した場合には、それぞれ同じ人数を記入してください。

		参 加 人 数			
		万 千 百 十 人			
漁 業 体 験	220				
魚 食 普 及 活 動	221				
そ の 他	222				

(2) 水産物直売所施設がある場合、その利用客数について記入してください。(過去1年間)

	利 用 客 数
	万 千 百 十 人
水 産 物 直 売 所	223

調査はここで終わりです。
ご協力ありがとうございました。

内容の問い合わせのみに使用させていただきますので、
ご担当者名と電話番号の記入をお願いします。

担当者：

電話番号：

2008年漁業センサス試行調査
流通加工調査
魚市場調査票（案）
平成19年7月1日調査

この調査票は、来年11月に予定している2008年漁業センサスの実施に向けて、調査実施上の課題等を明らかにするためのもので、それ以外の目的（税金の徴収等）に使用することはありません。

〔記入上の注意〕

- 1 記入に当たっては「魚市場調査票の記入の仕方」をよく読んでから記入してください。
- 2 調査票の内容については、本年（平成19年）の7月1日現在で記入する箇所と、過去1年間で記入する箇所があります。
過去1年間という場合は、平成18年1月1日から平成18年12月31日までの1年間について記入してください。
- 3 調査票への記入は、黒の鉛筆かシャープペンシルで記入してください。
- 4 数字は、算用数字で1マスに1字ずつ右に詰めて記入してください。

【統計調査員】 氏 名: 電話番号:	7月 日 () 午前・午後 時ごろに 調査票の回収に伺いますので、 それまでに該当する箇所の記入をお願いします。
---	--

〔事務処理欄〕

区分コード

大海区 都府県(支庁) 市区町村 漁業地区 市場一連番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

市区町村名

漁業地区名

市場名

市場種類コード

1:中央
2:地方
3:その他

開設者コード

1:地方公共団体 4:会社
2:漁協 5:個人
3:漁連

ここから記入してください



- 1 水揚げ又は搬入された漁獲物を卸売りするために使用できる売場の最大面積を㎡単位で記入してください。

	万	千	百	十	㎡
001					

2 7月1日現在の魚市場に所属する水産物卸売業者と水産物買受人の業者数を記入してください。

		業 者			
水産物卸売業者数	002				
水産物買受人数	003				

魚市場内の複数の卸売業者に、同一の買受人が登録している場合は、**魚市場としての買受人数**を記入し、重複させないでください。

3 過去1年間（平成18年1月1日～12月31日）の取扱高について、数量欄に水産物取扱数量を、金額欄に水産物取扱金額を記入してください。

		万 千 百 十 トン			
数 量	総 数	004			
	うち活魚	005			
	水 揚 量	006			
	搬 入 量	007			
	うち輸入品	008			

過去1年間に魚市場へ上場された**水産物（活魚、生鮮品、冷凍品、加工品）**の数量をいい、**第1次水揚量（内水面漁業、養殖量による生産品を含む。）**のほか、**他の漁業地域からの搬入量及び輸入品**も含まれます。

		億 千万 百万 十万 万円			
金 額	総 額	009			
	うち活魚	010			
	うち輸入品	011			

前記の数量欄で記入した、**魚市場に上場された数量**に対応する総金額を記入します。
また、活魚及び輸入品の金額をうち数として記入します。

4 7月1日現在で魚市場において、水産物の品質・衛生等の管理を目的として設置されている機器について、当てはまる番号をすべて○で囲んでください

海 水 処 理 装 置	012	1
砕 氷 ・ 製 氷 機		2
脱臭装置、排ガス処理装置		3
水 産 加 工 機 器		4
そ の 他		5

（海水処理装置）

紫外線殺菌装置、冷却装置等の海水の殺菌や冷却を目的とした装置

（砕氷・製氷機）

氷がけ等、魚市場内で使用する氷を製造するための装置。

出荷用保冷車や漁船の船艙に積むための氷のみを製造する目的の装置は含みません。

（脱臭装置、排ガス処理装置）

建物内の空気の清浄を目的とした装置

（水産加工機器）

フィレマシーン、包装機などの水産物の一次加工、パック作業等を自動で行うための装置

（その他）

上記以外で、水産物の品質・衛生等の管理を目的として設置されている機器

調査はここで終わりです。
ご協力ありがとうございました。

内容の問い合わせのみに使用させていただきますので、ご担当者名と電話番号の記入をお願いします。

担当者：

電話番号：



総務省承認	No.
承認期限	平成19年9月28日まで

様式調第11号

2008年漁業センサス試行調査
流通加工調査

冷凍・冷蔵、水産加工場調査票(案)

平成19年7月1日調査

この調査票は、来年11月に予定している2008年漁業センサスの実施に向けて、調査実施上の課題等を明らかにするためのもので、それ以外の目的（税金の徴収等）に使用することはありません。

〔記入上の注意〕

- 1 記入に当たっては「冷凍・冷蔵、水産加工場調査票の記入の仕方」をよく読んでから記入してください。
- 2 調査票の内容については、本年（平成19年）の7月1日現在で記入する箇所と、過去1年間で記入する箇所があります。
過去1年間という場合は、平成18年7月1日から平成19年6月30日までの1年間について記入してください。
- 3 調査票への記入は、黒の鉛筆かシャープペンシルで記入してください。
- 4 数字は、算用数字で1マスに1字ずつ右に詰めて記入してください。

【統計調査員】	7月 日 () 午前・午後 時ごろに
氏 名:	調査票の回収に伺いますので、 それまでに該当する箇所の記入 をお願いします。
電話番号:	

〔事務処理欄〕

区分コード

大海区 都府県 市区町村 漁業地区 事業所一連番号

	-		-		-		-		-	
----------------------	---	----------------------	---	----------------------	---	----------------------	---	----------------------	---	----------------------

事業所の形態コード

- | | |
|--------------|--------------|
| 1:個人 | 4:水産加工組合、加工連 |
| 2:会社 | 5:その他の組合 |
| 3:漁協、漁連、生産組合 | 6:その他 |

市区町村名

漁業地区名

事業所名

I 共通部分（すべての事業所の方がお答えください。）

1 「営んだ事業」は、過去1年間（平成18年7月1日～平成19年6月30日）に営んだ事業について、当てはまる番号をすべて○で囲んでください。

「主とする事業」は、営んだ事業のうち事業の収入が一番多かったものについて、当てはまる番号を一つ○で囲んでください。

		冷凍・冷蔵倉庫業	水産加工業	漁業・養殖業	水産物卸売業	水産物仲卸（買）業	水産物小売業	その他	
当てはまるすべてを○で囲みます	営んだ事業	001	1	2	3	4	5	6	7
いずれか一つを○で囲みます	主とする事業	002	1	2	3	4	5	6	7

2 7月1日現在の従業者数を記入してください。

			人			
常 雇	男	003				
	女	004				
うち、外国人		005				
人						
臨時雇・日雇	男	006				
	女	007				
うち、外国人		008				

従業者とは、賃金・給与（現物給与を含む）を支給されている人をいいます。

なお、個人事業主及び無給の家族従事者も含みます。

常雇とは、事業所に常時雇用されている人をいいます。

具体的には、①期間を定めずに雇用されている人、②1か月を超える期間を定めて雇用されている人、③平成19年5月と6月にそれぞれ18日以上雇用されている人をいいます。

臨時雇・日雇とは、常用雇用者以外の雇用者で、①1か月以内の期間を定めて雇用されている人、②日々雇用されている人をいいます。

うち、外国人には、常雇及び臨時雇・日雇のそれぞれに含まれている外国人の人数を記入します。（常雇及び臨時雇・日雇には外国人を含めた人数を記入します。）

Ⅱ 冷凍・冷蔵工場について

（貴事業所における冷蔵・冷凍施設について、お答えください。）

主機10馬力（7.5kw）以上の冷蔵・冷凍施設を所有し、調査日前1年間（平成18年7月1日～平成19年6月30日）に

- ① 水産物を低温保管した事業所
- ② 水産物の凍結作業を行った事業所

の方は記入してください。

※ 冷蔵倉庫業の他、加工場で所有する自家用冷蔵倉庫で加工原料を保管した場合等も含まれます。

1 冷凍・冷蔵庫の用途について、当てはまる番号を一つ○で囲んでください。

営	業	用	009	1
自	家	用		2

営業用とは、事業所が倉庫業法に基づき登録した冷凍・冷蔵庫で寄託品の保管を行う場合をいいます。

営業用の冷凍・冷蔵庫で寄託品のほかにも自営品（自家用の加工原料等）を保管している場合は営業用に分類します。

2 「利用者」は、過去1年間に冷凍・冷蔵庫を利用したすべての利用者について、当てはまる番号をすべて○で囲んでください。

「主な利用者」は、入庫量が一番多かった利用者について、当てはまる番号を一つ○で囲んでください。

○で囲んでください。

		寄 託 品							自	
		漁業協同組合等	漁業者	水産加工業協同組合等	加工業者	卸売業者	買受	その他	営業品	
当てはまるすべてを○で囲みます	利用者	010	1	2	3	4	5	6	7	8
いずれか一つを○で囲みます	主な利用者	011	1	2	3	4	5	6	7	8

漁業協同組合等には、漁業協同組合の他、漁業生産組合、漁業協同組合連合会を含めます。
漁業者には、個人その他、会社等の法人を含めます。
水産加工業協同組合等には、水産加工業協同組合の他、水産加工業協同組合連合会、その他の加工組合（事業協同組合、企業組合等）を含めます。
加工業者には、個人その他、会社等の法人を含めます。

3 冷凍・冷蔵庫の冷蔵能力（収容トン数）及び1日当たりの凍結能力をトン単位で記入してください。

		万 千 百 十 トン							万 千 百 十 トン/日				
冷蔵能力	012						凍結能力	013					

（冷蔵能力の換算率） $1\text{m}^3 = 0.4\text{トン}$

Ⅲ 水産加工場について

（貴事業所における水産加工品の製造業務について、お答えください。）

調査日前1年間（平成18年7月1日～平成19年6月30日）に、販売を目的として、水産物を原料として加工製造を行った事業所の方は記入してください。

なお、漁業を営む事業所・世帯であっても、加工製造のための作業場等を有し、かつ専従の従事者を雇って加工製造を行っている場合は調査の対象になりますので、記入してください。

※ 水産加工品とは、水産動植物を主原料（原料割合で50%以上）として製造された食用加工品、油脂、飼料、肥料をはじめ、生鮮水産物や食用加工品を凍結した冷凍水産物のことです。

1 過去1年間に生産したすべての水産加工品について、その種類ごとに生産量をkg単位で記入してください。

		生産量（kg）						
		014						
				万	千	百	十	一
冷凍水産物	①							
缶・びん詰	②							
ねり製品	かまぼこ類	③						
	魚肉ハム・ソーセージ類	④						
冷凍食品	⑤							
素干し品	⑥							
塩干品	⑦							
煮干し品	⑧							
塩蔵品	⑨							
くん製品	⑩							
節製品	⑪							

		生産量（kg）						
		014						
				万	千	百	十	一
その他の食用加工品	塩辛類	⑫						
	水産物漬物	⑬						
	調味加工品	水産物つくだ煮類	⑭					
		乾燥・焙焼・揚げ加工品	⑮					
		その他	⑯					
	その他	⑰						
寒天		⑱						
油脂		⑲						
飼肥料		⑳						
焼・味付のり		㉑						

※ 焼・味付のり
原料の板のりに換算した枚数を百枚単位で記入してください

2 過去1年間に生産したすべての水産加工品について、年間の販売金額が最も多かった種類を、上記1の番号①～㉑から選んで記入してください。

年間販売金額第1位の水産加工品の種類	015	
--------------------	-----	--

- 3 過去1年間（平成18年7月1日～平成19年6月30日）に販売した水産加工品の総額に該当する金額区分について、当てはまる番号を一つ○で囲んでください。

100万円未満	016	1
1 0 0 万 ～		2
5 0 0 万 ～		3
1, 0 0 0 万 ～		4
5, 0 0 0 万 ～		5
1 億 円 ～		6
5 億 ～		7
1 0 億 ～		8

水産加工品以外の製品を販売している事業所の場合には、事業所の総販売金額のうち、**水産加工品のみの販売金額**に該当する区分を○で囲んでください。

製造した水産加工品を**自社の他事業所へ加工原料として提供した場合**には、その分の金額は販売したものとして見積もってください。

- 4 過去1年間の貴事業所における原材料（水産動植物）の仕入れ状況についてお答えください。

- （1）原材料に占める国産品の割合について、当てはまる番号を一つ○で囲んでください。

原材料に占める国産品の割合	すべて国産品	017	1
	7 0 % ～		2
	5 0 % ～		3
	3 0 % ～		4
	3 0 % 未満		5
	すべて輸入品		6

重量ベースでの割合でお答えください。

- （2）国産原材料を仕入れた事業所の方にお聞きします。

貴事業所では国産原材料を漁業者や漁業協同組合（漁協が開設する市場を含む。）から直接仕入れましたか。

当てはまるすべてを○で囲みます



漁業者から仕入れた	018	1
漁業協同組合から仕入れた		2
その他の仕入先から仕入れた		3

5 貴事業所における製品製造の工程管理内容についてお答えください。

- (1) 7月1日現在、貴事業所ではHACCP手法による工程管理を採用していますか。
当てはまる番号を一つ○で囲んでください。

採用している	019	1
採用していない		2

HACCP（ハサップ）手法
とは、食品製造における原材料から加工、出荷に至るまでの各段階で「安全性に害を与える要因を分析」し「危害発生の防止の上で重要な管理を行うべきポイント」を監視・記録することで、食品の安全性を確保する衛生管理手法のことをいいます。

- (2) HACCP手法を採用している理由について、当てはまる番号をすべて○で囲んでください。

該当するすべてを○で囲みます



製品の高付加価値化	020	1
事故等のリスク削減のため		2
輸出先の基準を満たすため		3

調査はここで終わりです。
ご協力ありがとうございました。

内容の問い合わせのみに使用させていただきますので、ご担当者名と電話番号の記入をお願いします。

担当者：

電話番号：